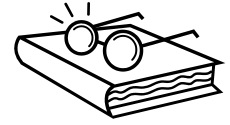


歌人・国文学者 佐佐木信綱

(1872-1963)

2021年12月1日(水)～
2022年1月30日(日)

鈴鹿市石薬師町出身の歌人・国文学者、佐佐木信綱に関する資料と、
信綱の国文学者としての大業『校本万葉集』について紹介します。



佐佐木信綱に関する資料

※○…貸出可(持出可)、×…貸出不可(禁帯出)

資料名	著者	出版社	発行年	請求記号	貸出
文化展望・四日市 第24号	四日市市文化振興財団 / 編集	四日市市文化振興財団	2007	L/051//24	○
三重県史 通史編近現代 1	三重県 / 編集	三重県	2015	L/200//	○
鈴鹿市史 第3巻	鈴鹿市教育委員会 / 編集	鈴鹿市役所	1989	L22/80/3	×
ふるさとのすがた 第1集	三重地区郷土史編さん会 / 編	三重地区郷土史編さん会	1986	L/223/三重/88	○
ふるさとのすがた 第2集	三重地区郷土史編さん会 / 編	三重地区郷土史編さん会	1988	L/223/三重/	○
ふるさと再発見	大谷台地区広報委員会 / 編	大谷台地区広報委員会	2008	L/223/三重/	×
四日市高等学校百年史	四日市高等学校百年史編集委員会 / 編	三重県立四日市高等学校創立100周年記念事業実行委員会	2001	L/376//01	×
泗水 9	四日市市立図書館 / 編	四日市市立図書館	1991	L/70//9	○
佐佐木信綱作詞校歌集	佐佐木 信綱 / [作詞]	石薬師地区女性学級	1989	L/76//	○
佐佐木信綱作詞校歌集 第2集	佐佐木 信綱 / [作詞]	石薬師地区女性学級	1990	L/76//	○
三重県の文学碑 1 (北勢編)	本城 靖 / 著	三重県郷土資料刊行会	1976	L/90/76/1	○
三重の子ども文学風土記	三重県小学校国語教育研究会 / 編著	日本標準	1985	L/902//	○
熊澤家佐佐木信綱関係資料	北川 英昭 / 著	北川 英昭	2004	L/911//	○
書簡が語る交流のあかし	佐佐木信綱記念館 / 編集	鈴鹿市	2005	L/911//05	○
佐佐木信綱の世界	衣斐 賢讓 / 著	中日新聞社[発売]	2008	L/911//09	○
近代「国文学」の肖像 第3巻	鈴木 健一 ほか / 編	岩波書店	2021	L/911//21	○
郷土に残る弘綱・信綱親子の資料	佐佐木信綱記念館 / 編集	鈴鹿市	2013	L/911//13	○
佐々木弘綱の世界	北川 英昭 / 著	佐佐木信綱顕彰会	2013	L/911//13	○
佐佐木信綱とふるさと石薬師	鈴鹿市 / 編集	鈴鹿市	2017	L/911//17	○
信綱と万葉集	鈴鹿市 / 編集	鈴鹿市	2020	L/911//20	×
佐佐木信綱歌集(佐佐木信綱全集9)	佐佐木 信綱 / 著	竹柏会	1956	L/911/ササ/	×
佐佐木信綱記念館だより	佐佐木信綱記念館	佐佐木信綱記念館		おたよりファイル	×

※ 注)貸出欄が「×」となっても、地域資料室以外や市内の別の図書館で貸出できる資料もあります

◆佐佐木信綱に関する資料は、当館一階・成人図書室の詩歌の棚(背ラベル911～)などにも多く並んでいます。
あわせてご覧ください。

→裏面もごらんください

四日市と凄い人列伝 プチ展示版

歌人・国文学者 **佐佐木信綱** 1872-1963**"佐佐木"or"佐々木"?**

信綱は、中国へ行った際に現地で名刺を作成。出来上がってきた名刺に「佐佐木」と刷られたのを見て気に入り、これ以降「佐佐木」を使うようになりました。

信綱について

1872年、歌人で国学者の佐々木弘綱の長男として、鈴鹿市石薬師町に生まれる。父に伴い上京した後、東京大学古典科国書課に入学する。

短歌の会・竹柏会(ちくはくかい)を主宰し、機関誌「心の花」を創刊。和歌革新運動に関わった。生涯で一万首以上の作品を残し、多くの歌集を刊行した。また、市内では、佐々木家と縁のある「光念寺」(小杉町)に歌碑がある。

歌人として活躍する一方、東京帝国大学文科大学で講師を勤め、和歌史・歌学史を研究。『校本万葉集』の刊行など、国文学者としても成果を残した。

また、唱歌「夏は来ぬ」など、作詞も多く手がけ、四日市市の市歌や市内にある学校の校歌も作った。

信綱が校歌を作詞した市内の学校

四日市市立塩浜中学校 四日市市立南中学校 四日市市立楠中学校
三重県立四日市高等学校 三重県立四日市工業高等学校

『校本万葉集』とは

万葉集研究には、欠かせない資料のひとつ。

万葉集は、原本は残されておらず、平安時代以降に作られた写本(書き写した本)がのちの時代まで伝わり、その写本には多くの種類がある。

信綱は、その写本を収集し、本ごとの文字や文章の違いを一覧できる「校本」の編集を主導した。

刊行が決定して間もなく、関東大震災が発生。印刷原稿や資料などが、焼失する。校正用の原稿はどうか残っていたが、資金が不足。四日市の実業家・熊澤一衛の資金援助を受け、1924(大正13)年に刊行に至った。その後も、新たに写本や資料が発見されるたび、増補版が出版されている。

いずれも、貸出はしていません。
地域資料室内でご覧ください。

地域資料室で見ることのできる『校本万葉集』

- ・『校本万葉集』 佐佐木信綱 /等編, 校本万葉集刊行会, [1924~25年]
和綴じ本。全25冊。(資料保存のため、複写はできません)
- ・『校本万葉集 新增補版』 佐佐木信綱, 佐竹昭広 ほか/編, 岩波書店, [1979~82年]
1980年前後に出版された新增補版。全17冊。

四日市市立図書館 〒510-0821 四日市市久保田一丁目2番42号

TEL059-352-5108 Fax059-352-9897

開館時間/(平日)9:30~19:00(土日祝)9:30~17:00 休館日/月、第2,4火、年末年始、特別整理期間